壬生町政だより

39年1月号

No. 61
毎月1回発行
発行所 栃木県壬生町役場
印刷所 株式会社 新生社

諸統計より

人口統計		
昭和39年1月1日現在		対前月比
総人口	24,141人	15人減
男	11,885人	2人減
女	12,256人	13人減
世帯数	4,534世帯	8世帯増

壬生町の青写真

壬生町長 小田垣健一郎

▽…静かな正月

今年の正月は本当に静かな日和だった。二万五千の町民の一人一人がすがすがしい気持ちで、新年を迎えた事と思う。

町長という仕事は全く多忙な毎日であるがこれという病気もしないでやってこられたことは、心に張りを持って、仕事をして居る故かも知れぬ。

日常の多忙な身にとって正月は実に貴重な休みである。炬燵に当りながら日頃目の通せなかった読書をしたり、これからの町のあり方を、じっくり考えることができるからである。

▽…玩具の町誕生

玩具団地の農地転用は昨年の押しせまった十二月二十六日、農林大臣から許可がおりた。壬生町の開発のキーポイントであっただけに、実にホッとした思いである。二十八万坪の土地と五十戸余りの開拓農家の運命を左右する大事業だけに、私の感慨は一入であった。町も、県も、玩具組合も背水の陣を堅め、真剣にとりくんだ結果である。

二月から全地域の整地と団地内の道路工事が始まる。春になれば工場建屋のつち音が、あの拓生の空に響くことであろう。

▽…壬生町の青写真

西洋に「新しい酒は、新しい革袋に盛れ」という諺がある。壬生町の工業開発地区は、玩具団地を含め九十万坪余のぼう大な面積である。この町は農業と農村をバックにして生活してきた商業の町であった。明日の壬生町は第二次産業である工業を加えた成長力の強い若者である。

この若者にふさわしい革袋として、今後の都市計画を描きたい。加えて県道小山今市線、真岡壬生線の両県道が、新道路五カ年計画事業として建設省の認める所となった。東京から青森までの「東北縦貫高速道路」は宇都宮までを三十九年度事業として、すでに始められており、その果す役割を十分考えたい。

▽…見栄という化物

日本人の見栄張りは、国際的にも定評があるそうである。武士は食わねど高揚子…といった昔もあった。町の懐工合は限りがあり、見栄は捨てて実をとりたい。少しでも暮らし良い環境をつくる。これが町長のつとめである。町民の期待をこめて今年の財政の運営は重点的にしたいと思う。

▽…今年の課題

政府の三十九年度予算編成の中で、農業と中小企業の育成対策に注目したい。農業の構造改善にはまず環境づくりが大切である。農業を離れる者は工場へ、専業農家は経営規模の拡大と、機械化選択的拡大へと。それにつけても農協の合併機運が盛り上りつつあることは大いに喜ばしい訳である。工業による人口増と関係の深いのが商業である。良いマーケットが提供できるかどうか今後の課題となろう。

▽…環境づくり

環境ほど人間を良くも悪くもかえるものはない。カとハエのいない町づくり、心配ごと相談所の定期開設、新年度にはごみ焼却炉の建設計画、上水道の基礎調査などの実施。

各学校の整備、中でも壬生小学校の校舎建築は三十八、三十九年の両年度でやりたい。各小学校の給食室を完成させたい。

町営住宅は今年も二十戸建設する。町を育てる機関としての役場も、時代に沿ったものに徐々に改めてゆきたい。

明るい日ざしが町長室の窓いっぱいに溢れている。今年も大いに頑張ろう。

一月六日
町長室にて 小田垣

玩具団地二月から着工へ
初年度は十六工場建設

拓生（たくにう）の開拓農地二十八万六千坪にのぼる農地転用は、昨年十二月二十六日農林大臣からありました。

別表に輸出玩具工場団地の農地転用の認可がおりるまでの経過を掲載しておきました。

別表を見てもおわかりのように、農地転用の手続きを進める上で、その前提事務（首都圏整備委員会、通産省、大蔵省、建設省、農林省、栃木県庁）が複雑にからみ合って、そのむづかしさをあらわしています。町役場県庁、玩具組合が真剣にとり組んだ結果、今回の許可となったものです。

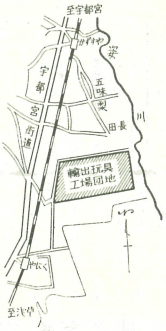
玩具組合の建設工事予定では、三カ年計画の初年度として玩具組立メーカー九工場、関連企業七工場、合計で十六工場が建設されます。

団地内の道路は幹線（延長二、八五〇メートル、幅員一四・五～十八メートル）支線（延長七、二二〇メートル、幅員六～十二メートル）は全部夏頃までにアスファルト舗装ができ上ります。

また団地内の従業員住宅は、二百名を収容する独身寮アパートと妻帯者のアパート五十戸、一戸建住宅十三戸等が建築される予定で、工場建設より先行的に実施されます。

別表

▷輸出玩具工場団地誘致決定	昭和37年2月
▷工場適地に関する調査	昭和37年8月
同上工場適地認可	昭和37年10月
関係官庁：通産省企業局，東京通産局産業立地課，県工業開発課．壬生町，首都圏整備委員会，農林省	
▷市街地開発区域に準ずる区域の話合い	昭和37年11月
関係官庁：首都圏整備委員会，県企画室，壬生町	
▷中小企業近代化資金助成法による	
1. 承認団地の申請	昭和37年5月
同上承認	昭和37年9月
2. 助成団地の申請	昭和38年1月
同上認可	昭和38年6月
関係官庁：通産省中小企業庁，東京通産局中小企業課 県商工労働部，壬生町	
▷都市計画に関する地域変更申請	昭和38年4月
同上承認告示	昭和38年6月
関係官庁：建設省，県土木部計画課，壬生町	
▷農地転用事前及び本申請	
事前申請	昭和38年6月
同上内示	昭和38年11月
本申請	昭和38年11月
同上認可	昭和38年12月
関係官庁：農林省農地局，東京農政局，大蔵省管財局 県開拓課，農政課，壬生町農委	



下水道工事（栄町）はじまる

壬生町の大通りを流れて栄町から黒川にそそぐ間の一部、二百六十メートルの下水道工事が始まりました。

延長二百六十米、巾員一・四米、深さ一・二米です。これによって保健衛生上の効果はいちぢるしい。

請負者は佐藤工業と斉藤土建が実施します。

母子健康センターも

母子の保健指導の場として、稲葉支所の東北側に建坪七三・七五坪、木造平家、亜鉛ぶき、モルタル塗装で、工事費四百四十万円をかけて建設します。工事は佐藤工業K・Kで行い四月二十日までに完成の予定です。

毎月二十五日 農委の会議日

壬生町農業委員会々議では、皆さんからの農地の移動、転用その他陳情書等の申請を昭和三十九年一月より毎月二十五日と定め（以前は毎月六日）ました。申請文書等は毎月二十日迄に受付したものを議題とし審議するわけですから、申請する方は、ご注意を。

今月の納税

町県民税 第四期分
国民年金納入月
（十月、十一月、十二月分）

歳末助け合い募金

各町内 一三七、六五九円
役場より 九一、六四八円
稲中三年二組 一、〇〇〇円
稲中三年四組 五〇〇円
人見与四郎（宇都宮） 一、〇〇〇円
以上

累計額は二五一、六五七円で壬生町民生委員協議会にはかり、壬生町出身者で各施設に入所者九十名と町内の被要護者に配分されました。

心から御礼を申し上げます。（民生課）

フォーク・ダンスの集い

二月六日・二月二十日
午後七時より
壬生町中央公民館ホールご自由にご参加下さい

学生寮の入寮者募集

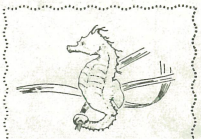
県育英会では、栃木県出身の学生で東京都又はその隣接県に所在する大学に在籍する者及び同上の大学一年に入学希望の学生に対して募集しています。

◆寮の所在地
東京都目黒区上目黒八丁目六八三番地

◆募集人員
男子学生 約五十名
女子学生 約二十名

◆受付期間
一月四日から二月十日まで

その他くわしいことは宇都宮市塙田町五〇四番地栃木県庁内、財団法人栃木県育英会へお問い合せ下さい。



お知らせ

耕耘機のナンバーかわる

今度、法律が改正されて現在まで軽自動車とされていた農耕作業耕耘機は、小型特殊自動車の種類に入ることになりました。

なお、申告書の受理、標識の交付等は、以前は陸運局で行われていましたが今後直接、役場税務課で取り扱うことになりました。

このため、標識（ナンバー）の取替えを行う予定ですが日割その他については決まり次第お知らせします。

迎春

町長 小田垣健一郎
助役 大垣八郎
収入役 鈴木道喜
外役場職員一同

壬生町議会
議長 斎藤米吉
副議長 松本徳太郎
議員
石江正己
高橋正三
高山堀恵
篠原義久
大橋文男
浜野清
林三左衛門
須藤源造
大橋三左衛門
星佐一郎
高木紋市
石塚正義
粂川秀武
青柳金庫
黒川徳治
大栗竹一
青木信也
大橋善一郎
森田一
玉田一
瓦井昇治郎
楡井章三
粂川仙太郎
青木要市
栗原茂雄
若林茂一
長保俊
細井金平

今年もはじまる町営住宅工事

ひばりガ丘団地に今年の分二十戸の工事を着手しました。

第一種 木造平家建厚形スレート葺　八戸

一戸の面積は、三六・四三㎡（十一坪）玄関、六畳、四・五畳台所兼食堂、物置、便所。

第二種 プレハブ（組立住宅）四戸一棟

一戸の面積は、三一・四七㎡（九・五二坪）玄関、四・五畳二間、台所兼食堂、物置、便所。

合計二十戸で、完成は三月中の予定です。

着々と進む町営住宅の工事現場

農業基本調査　二月一日から

本年度、県では市町村の協力を得て農業基本調査を実施することになりました。

この調査は県下のすべての農家について昭和三十九年二月一日現在で行なわれます。

なぜ農業基本調査を行なうかと申しますと、ご承知のとおり農業も新しい農業技術や機械の普及を中心として著しい進歩をみましたが、最近は農業収入の伸び方が鈍化してきたと一般にいわれております。農業がこのような状態にあることは、ここ数年来工業を始めとする他産業の発展が、あまりにもめざましかったのに対して、農業生産の基礎になるいろいろの諸条件が、まだ遅れているという見方もできるわけです。

ですから、このような農業が国の重要産業の一つであるだけに極めて大切なことです。従って、県や市町村は国の施策と相まって農業を近代化する方向に導いてゆくために、いろいろな施策を実施しておりますが、当面する農業構造改善事業を始め各種の農業施策をより効果的に進めて参ります上には、農業に関する基礎資料が是非必要となったからです。

この調査は、調査員が皆さんの家を訪問して世帯主の方から聞き取り調査をする仕組になっておりますが、調査票に書かれたことは県統計調査条例によって個人の秘密として保護されるばかりでなく、徴税の資料に使用することも固く禁じられておりますので、ご懸念なくありのままを正しくお答え下さい。

昭和38年度地区別主要農産物作付状況集計表

地区別	農家戸数	耕地面積 田	耕地面積 畑	水稲	陸稲	大麦	ビール麦
壬生	844	2,805.2	5,364.1	2,805.2	2,320.9	2,207.7	3,600.0
稲葉	873	5,068.7	4,743.4	5,068.7	2,031.6	1,781.6	3,326.5
南犬飼	945	3,422.7	8,044.8	3,422.7	3,207,7	414.4	4,162.2
計	2,662	11296.6	18,152.3	11,296.6	7,590.2	3,479.5	11,088.7

地区別	小麦	たね	甘藷	馬鈴薯	落花生	そ菜	雑穀
壬生	2,207.7	0.8	258.5	154.9	437.9	970.5	154.1
稲葉	2,031.7	2.5	198.7	134.2	158.8	1,140.8	170.5
南犬飼	2,640.9	3.6	308.5	168.0	133.6	1,721.5	55.6
計	6,880.3	6.9	765.7	457.1	1,530.3	3,832.8	380.2

地区別	特殊作物 大麻	煙草	干瓢	桑	果樹 梨	ぶどう	もも	家畜 乳牛	和牛	馬	豚	鶏
壬生	33.7	40.2	714.0	127.2	31.6	11.5	15.9	82	461	21	312	7,406
稲葉	145.2	22.5	337.7	30.5	5.6	1.0	1.6	43	569	90	158	6,328
南犬飼	—	20.0	1,195.6	25.6	29.3	—	7.2	11	568	133	416	11,163
計	178.9	82.7	2,247.3	183.3	66.5	12.5	24.7	136	1,598	244	886	24,897

（単位反）

壬生町農業　昨年の作付状況　そ菜・畜産が向上

昨年の地区別農作物作付状況を集計して見ますと秋冬作については、昭和三十七年十二月一日現在春夏作については、昭和三十八年七月一日現在で調査したものです。

この資料は、各農事部長に依頼し、個人申告から出た本町農業作付状況ですので今後の参考にお知らせします。（上表）

成人者を祝う

第十五回の成人式は十五日午前十時より壬生中央公民館で行われました。今年の成人者は男子二百五十四人、女子二百七十一人、合計で五百二十五人です。

また成人になられた感想文を募集し、式場では二人の発表を行い、深い感銘を与えました。

今年の成人者は、女性はきらびやかな和服姿、男性は、背広姿で会場はパッと花が咲いた感じでした。

最後に地区別の記念撮影を行いました。

成人式の受付風景

寄生虫をなくそう

寄生虫による病害は、現在なお衰えていません。この病気は直接痛みとか発熱があることが少ないので、その点一般に関心のうすい病気となっています。寄生虫がどうして日本に依然として多く存在するかは、（戦後少なくなったとはいえ）糞便の使用がその一番の原因であることは明らかであります。

保険課では毎年地区毎に希望をとって寄生虫駆除を実施しております。寄生虫をぜひ追放しましょう。

右表は昭和三十八年度に実施した成績です。

	実施人員	虫卵保有者数	鈎虫（十二指腸虫）	%	蛔虫	%	その他	%
壬生	396	87	69	17.42	10	2.53	13	3.28
稲葉	656	199	178	27.13	24	3.66	8	1.22
南犬飼	567	111	98	17.28	9	1.59	7	1.23
計	1,619	397	345	21.31	43	2.66	28	1.73

〔自分では気づかないで虫をもっている人が意外に多いのです〕

壬生史帖

佐野乾山と壬生（二）

常楽寺で焼もの

新春にふさわしい催しとして、本県初の佐野乾山展が発見者の森川勇氏（元文部省文化財調査員及び修理監督官で蒐集家でもあり古美術研究の権威）の好意により一月十五日から二十日迄宇都宮市の東武デパート五階ホールで開催され問題となった名品と手控帳等の資料が一般に公開されたが中央からは乾山研究会の専門家の方達や美術家が見える事でもあり、特に石塚青我氏の解説で、その真の姿を紙上を通じて論評される由、さぞ県民の皆様にもこの機会に認識を新にするものがあろう。

乾山は元文三年（約二百二十六年前）の正月早々、佐野より常楽寺の具慶という尼僧（京都公卿の出で壬生家の菩提を弔うために常楽寺南境内に小庵をむすぶ）を尋ねて約二カ月滞在し、その間越名から馬で錦窯を運ばせ焼物を焼いている新事実が「壬生之記」というメモ帳の発見の中に当時の壬生の様子等と美しい絵や文章で書き記している。（壬生之記の詳細は後述）時に乾山七十六才であった。猶この製陶の実証調査は石塚青我氏（鹿沼市出身の日本画家で郷土史家）を中心とする博物館関係の専門家達の乾山研究会の一行で、佐野より来壬し調査となったのが六月十五日であり、そうして発掘の計画を石塚氏と私が実施したのが十月五、六日の両日であった。また当日は国立博物館の陶器主任の林屋晴三氏、佐野市文化財委員の山中信一氏等が立会い、庵址の礎石、製陶状況を裏付ける素焼残片外壁の粘土塊、捨炭、残塵処理跡等の確認となり乾山の滞在製陶と「壬生之記」の実証を此度の発表により、日本美術史上に本県及壬生町史に重要な一頁を加えるに至ったのであり、ここに壬生乾山の誕生となるのである。

（註）

壬生常楽寺に於ける具慶尼庵及び窯址の発掘想定地は（佐野乾山）手控帖「壬生之記」の文章（内容）の一節「越名の窯を改めて借りうけ申す事この春四斎の祈り日荷駄はこひければ」又「（御一族様の御法要を心かけられ申し）寺南の地に小庵をもうけられて」や「（この大雪は白衣にして清浄極まりなき…）心静かにかまへ申してこの窓より筆そなしめる」の写生図（つまり常楽寺西方約十二粁の山塊多分矢倉、大倉山の一郡と推定される雪景色の風景を望む位置を設定した）及び寺伝や地図等の判断による境内状況（建造物の有無、位置）を参考としたが、この外寺南の地一帯に於ける状態、つまり今迄における異状性等を重要な事項として木村氏所有の約三十坪の畠地を対象としたのであった。（続）

（壬生高教諭　渡辺達也）

この写真は註(1)に関係し，壬生町西方約12粁の鍋山北方の矢倉・太倉山の一群と推定され庵室辺りからの眺望とする

道しるべ

越冬

ハエの退治には絶好の時期です。茶の間とか居間の天井を見上げてごらんください。何びきのハエがぴったりとくっついていて、ぬくぬく暖まっています。これが夏になると数の知れないほどにふえて飛び回りますからお天気の良い日に納屋や天井に殺虫剤をふきかけて退治しましょう。

空気

が乾燥しているので、火事が出ると大きくなります。次の点を特にお守りください。

◆カマドの残り火、たき火のあと仕末には水をかける。

◆練炭の取り灰は金属性のバケツに一日おいてから捨てる。

◆石油コンロやストーブに油を注ぐときは必ず火を消してから。

◆ガスストーブは、寝る前に元センをしめること。

受験

を目前にしている生徒の健康管理は、睡眠と栄養と運動の三点に要約される。

頭脳の働きには、十分な睡眠が大切であり気があせるままに睡眠不足の状態で机にかじりついていても、勉強の効果はあがらない。

受験生の食事としては、たん白質脂肪、ミネラル、ビタミンを含んだ消化のよい栄養価の高い食品を平均して、腹八分目にすることで具体的には牛乳や、肉、卵、みそ汁、豆腐、納豆、小魚、野菜、くだものなどが考えられる。

女子

従業員を募集しています。日本インシュレーターでは満25才未満、若干名で学歴不問、給与優遇、希望者は壬生町至宝町の同工場総務課へ申出ください。